

隠れた第三次元

バサラブ・ニコレスクへ捧ぐ

森林の緑に
憩い
アルファベットに声かける鳥に
憩い
連なる水滴に
憩う。
水滴は
概念から切り離されて
葉の上に留まる文字。
息をする羽ばたきのように
言葉の暗い嵐を
止める。

我に戻れ
清らかな初めての呼び声
その響きは
魂を通り抜け
通い合う光で満たす。
他者が発話する時に
設ける限界をかき消して。

そしておまえは、使われすぎた唇よ、
注意を怠ってはならない
音波に隠された神秘に
そして学習せよ
透明ということ。

クララ・ハネス
マドリッド、2010年3月2日

Poema de Clara Janés. Traducido por Kayoko Takagi.

存在の第三の影

バサラブ・ニコレスクに

森の緑に身を休める、
アルファベットを囀る小鳥に
身を託す、
舞い落ちる滴たちに
心を寄せる、
それらは文字
意味の彼方から届き
そして葉の上に憩う、
冥い言葉の奔流を
鎮める
軽やかな息のように。

けがれなき呼び声よ
私のうちに蘇れ
純粹な共鳴音となって、
心を透過し
かよい合う光で満たす、
そして、他者が言葉で築く境界を
無用のものにする。

疲れたる唇よ、
耳を寄せて
波の秘密を聞くがいい
そして、学べ
透明であることを。

クララ・ハネス
マドリッド、2010年3月2日